

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 29

事業所番号	2693000123		
法人名	一般財団法人長岡記念財団		
事業所名	グループホーム ローズマリー 2階		
所在地	京都府長岡京市友岡4丁目43番地		
自己評価作成日	平成29年5月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花		
所在地	居都市左京区南禅寺下河原町1番地		
訪問調査日	平成29年5月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①認知症高齢者の皆様、そのご家族、関係者及び地域の皆様に対し、安心と満足を提供することを目指して、住みなれた地域での生活を送っていただけるよう支援しています。</p> <p>②「人間の尊厳」を礎に「ご利用者とその家族との信頼関係の構築」「職員同士の信頼関係に京子なチームワーク」「地域密着型サービスとしての責任と貢献」をモットーに心のもったサービス提供に取り組んでいます。</p> <p>③長岡ヘルスケアセンター、アゼリアガーデンと同一敷地内にあり、また地域の在宅との連携、常勤看護師配置等医療面においても万全のサポートを整え、看取り介護にも取り組んでいます。</p> <p>④利用者以外の地域で生活されている高齢者等がよろず相談や気軽に立ち寄ってくださる事業所を目指し、地域包括支援センターをはじめ、地域住民や民生委員、見学者等にお声かけをしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1階ユニートに同じ。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1階、2階のスタッフルームに理念を掲げている。各職員出勤時に目を通すことで、日々実践に繋がられるよう心掛けている。	以下の項目すべて1階ユニットに同じ。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	家族様の要望により自治会には加入していないが地域包括支援センター、民生委員との交流を図り情報を得ている。また、夏祭り等の事業所のイベントを開催する場合には近隣に声掛けをしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の方を通じ自治会の時など地域で困っておられる方がへの相談の窓口として気軽に見学など来ていただける場として提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ローズマリー便りの配布で行事の報告と日常の報告を行い、家族様には理解していただいている。会議に参加されていない家族様にも議事録を配布し、意見を聴きサービスの向上に活かせるように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に高齢介護課の担当の方に参加していただき事業所の様子を広告し、共にサービスの向上ができるよう努めている。今年度は介護支援相談員を導入し、客観的意見が聴けるよう取り組む予定。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関ドアは施錠されているがいつでも開けられる状況。ユニットの入り口は施錠しているが家族様も理解し安心感をもたれている。職員はマニュアルをいつでも閲覧できるようになっており、1日1回ユニットごとのミーティング時に「拘束しないケア」について話し合い、勉強会を兼ねて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、職員がいつでも閲覧できるようにしている。ご利用者の入浴時にはこまめに身体チェックを行い職員で報告し合っている。月1階のミーティング時に勉強会を兼ねての話し合いをもっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人がつかれている利用者様は少ないが今後成年後見制度を活用される方は増加されると見込まれるため適宜勉強会を実施していきたい。現状はまだ勉強会は実施できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に事業所内を説明しながら見学をしていただいている。契約に関しては相談室にて説明を行い、家族様からの疑問に対しては納得していただけるよう十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に出席していただいた家族様には毎回要望等を聴く機会を設けている。出席されていない家族様には面会時や電話対応時に聞くように心がけている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングを実施。毎日、その日に出勤している職員に対しての声掛けにより意見を聴く機会を設けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者はスタッフがやりがいをもって仕事に取り組めるよう職場環境に配慮し、職員の悩み等も聴いている。また資格(介護福祉士等)の取得等があった場合等も含め、評価をし代表者へ伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回、職員が外部研修を受けられるよう努めているが、人員の少ないこともありできる時期とできない時期がある。事業所内での研修は定期的には開催できていないがミーティング時に相談しながら課題検討をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や地域密着型サービス連絡会等を通じて相互に事業所同士の見学会や研修会の企画を検討している段階である。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居してすぐに入居者本人の不安が大きいことを職員全員が理解し、不安に思っていること、要望等に耳を傾けスタッフ同士で相談しできる限り入居者の思いに沿うことができよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に家族様とのコミュニケーションを取ることによって信頼関係を築き、面会の少ない家族様には電話対応にて信頼関係を築いている。不安や要望に対しては速やかに対処している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居してすぐにご本人、家族様の要望をヒヤリングし、ホームとして対応できるかどうかを相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人ひとりに平等に声掛け、仲良く協力的な関係を築けるように心がけている。一定の信頼関係が築かれているため、さらに入居者の言葉に耳を傾けご本人の思いを探るよう努める。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の要望を取り入れられるよう話し合い責任を共有することという考えのもとサービスを行っている。家族様が来所時には必ず近況報告を行い、何かあった時は必ず電話報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	何時でも面会に来ていただける雰囲気作りを行っている。友人など来られた際には職員も一緒にリビングで談笑し、気軽に来ていただける雰囲気作りにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	現状、日中ご入居者は部屋で過ごされることなくリビングで過ごされている。リビングでの席など配慮したり常に職員も近くにおり、自然な形で関わり合えるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、家族様が地域の方に事業所のアピールをして下さっている。事業所にも気軽に来ていただき、ボランティアとして支援をして下さっており関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご本人、家族様と面談して情報収集している(出身地、職業、戦争時のこと、趣味や家族構成等)。入居後に日々の行動、表情、しぐさからくみ取るに努めている。日頃の行動パターンなどから得た情報により、一人ひとりのサインや思いを把握するように		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事業所独自のフェースシートに基本情報を記入していただき、それをもとにご本人、家族様からヒヤリングをしてこれまでの生活状況を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の日常記録より、一人ひとりの生活のリズムを把握できるように努めている。ご本人のできることは記録し情報を職員間で共有することに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当の職員にアセスメント表を用いて課題やケアのあり方について記入してもらったり、日々の記録や申し送り等から現状にあったケアができるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の日常記録の記入や申し送り等で職員間で情報共有し実践や計画の見直しに活かせるように努めている。例えば、退院後の筋力低下で歩行が困難になっていても歩行訓練、体操等を実施し残存機能の維持向上につながるサービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々要望に対してはできる限り対応するように努め、外出や外泊等は本人、家族様の移行を汲めるようにしている。突然の外出や外泊も可能としている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に地域のボランティアの来訪があり、入居者の生活が豊かになるようにしている。最近では家族様がボランティアにこられお茶会を開いてくださったり、季節に合わせたお菓子や食べ物を持参して下さったり、入居者の話を傾聴していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様には入居の齊に協力医療機関の説明を行っている。地域の在宅医である内科医が3人、往診にきてくれており、入居者はそのいずれかの医師がかかりつけ医となっている。医師は24時間相談に対応してくれる。ホームでの状況は看護師が伝えてい		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しており日々の情報を共有し、相談、指導を受け、入居者の生活を支えるよう取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際しては、主治医、家族と連携がとれ、本人の情報は必要な限り提供し、入院中管理者や職員が訪問し退院を含め、今後の方向性について話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度した場合の看取りの指針」について本人、家族様に説明している。実際に重度化した場合には家族様、主治医と連携をとり本人にとって良い方法を家族と職員で話し合っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応マニュアルがあり速やかに対応できるように備えている。緊急時の連絡先を表にして備えている。入院時情報提供書をスタッフ全員がすぐに出せるように周知している。AEDや心配蘇生法等の研修はまだできていないが、今後実施予		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練、非常災害時訓練を消防署、法人グループ(病院等)を交えて実施している。地震について京都府が実施しているシェイクアウト訓練にあわせて職員同士で話し合い、危険場所や危険物についての見直しを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴や仕事歴を理解して背景にある家庭状況にも心を配るように努めている。信頼関係を築き節度ある言葉かけを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	精神的に落ち着かれていない時や嫌な出来事に我慢されないようにゆっくり時間をかけて本人の思いを傾聴し理解するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは説明している。但し、本人の状態や気分に合わせて中止にしたり時間を変えたりしており、無理強いはないように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた衣類を着ていただいている。汚れた衣類はすぐに着替えていただき清潔保持に努めている。月1回の出張美容院も利用していただき爪切りや髭剃りも実施している。(週1回チェック、入浴時)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日パーティーを実施。食事アクティビティ(焼きそば、餃子、たこ焼き、流しそうめん、かき氷、餅つき)。野菜を切ったり、包んだり準備を一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	小食の同居者に対しては小分けにして何回か食事をしていただく。好みの品を提供している。水分に関しては、コーヒー、紅茶、ジュース、ポカリ、ゼリー、ヤクルト等いろいろ用意しており、1日1200cc以上は確保できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の動作レベルに合わせ準備や介助を行っている。うがい困難時はガーゼで口腔内の清潔保持に努めている。バイオティーン塗布や義歯洗浄実施。月2回訪問歯科を依頼している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムを把握し定時の声掛けを行い日中はトイレでの排泄を行っている。自立者に対しては排便の有無、汚染パットの交換の声掛けや確認を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を毎日チェックし必要時は内服で調整している。排便がスムーズになるようにヨーグルト、乳酸菌入りの飲み物を用意し提供している。水分補給に努め運動を奨励し腹部マッサージを実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応のスケジュールは作成しているが(週3回入浴)午前・午後と本人の希望に沿っている。体調面で入浴できない時は翌日に変更したり毎日入浴できるように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間や入眠時間は個々の意向に沿っている。日中も休息希望に対応し居室やリビングないのソファを使用して休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用、用法、用量については職員が各々勉強し理解、出来るように看護師より指導を行っている。薬の変更や処方が出た場合は申し送りを行い職員全員が把握できるように努めている。誤訳がないよう必ず名前を呼んでから渡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、食器の下膳。テーブル拭き、レクリエーションで作成した作品の飾りつけ、口腔体操の掛け声等を手伝っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩以外に個々で希望される場所にお連れしている。家族の協力も得て施設内の喫茶店やファミリーレストランでの食事。今後はバスや電車を利用した外出を計画中である。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理可能な入居者には所持していただき買い物、希望時は職員が付き添ったり、遠方の時は付き添いを依頼しタクシーを利用され買い物に行かされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は家族様に了解を得て電話をかけていただいている。手紙に関しては職員がポストにいれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	湿度、温度(加湿器)の調整を行っており1日1回窓を開け空気の入れ替えを行っている。居室や共用部において毎日掃除を行い清潔に心がけている。季節に合わせてカレンダーつくや飾り物を作成し展示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中では一人になれるスペースがないため、居室で過ごしておられる方もいる。テーブル席は定位置になっており自分のスペースだと認識は持たれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族様の意向に合わせ、自宅で使用された家具や調度品等を使用いただいている。居室内での転倒予防のため家具の配置には配慮している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各々の個室にネームを記入し間違わないようにしている。共用部にも理解できるようにネームを貼っている。導線に気を付け不要なものは片付けており転倒予防に努めている。		